



ほなるどる

令和2年度 決算状況

市は、新しい年度が始まる前に、あらかじめ税金などの収入と行政サービスに使う支出の金額を見積もって、市長が「予算」案を作ります。

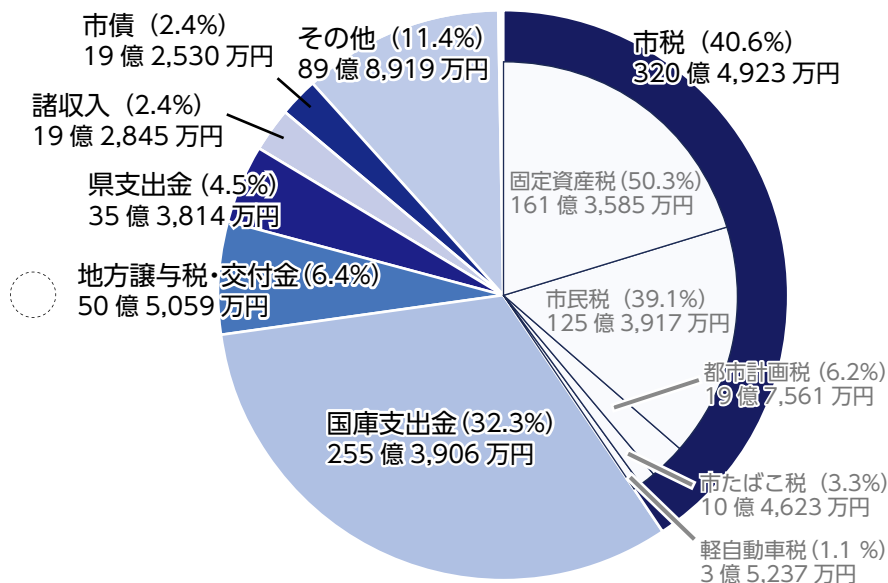
その案は、毎年3月に市議会で審議され決定します。

最終的に予算がどう使われたかを整理したものが「決算」です。

問合せ先 財政課 (☎ 76 - 1190)

一般会計とは 皆さんが納めた税金は、主にこの一般会計に使われています。

福祉や子育て・教育、道路整備などのまちづくりにかかる基本的な会計です



一般会計の歳入決算

総額 790 億 1,996 万円

市税

市民が市に納める税金
(市民税、固定資産税、軽自動車税、市たばこ税、都市計画税)

国庫支出金

国が行うべき事業を市へ委託する場合の交付金など

地方譲与税・交付金

国や県が徴収した税金の市への配分金
(自動車重量譲与税、地方消費税交付金など)

県支出金

県が行うべき事業を市へ委託する場合の交付金など

諸収入

市預金利子、貸付金元利収入、雑入など

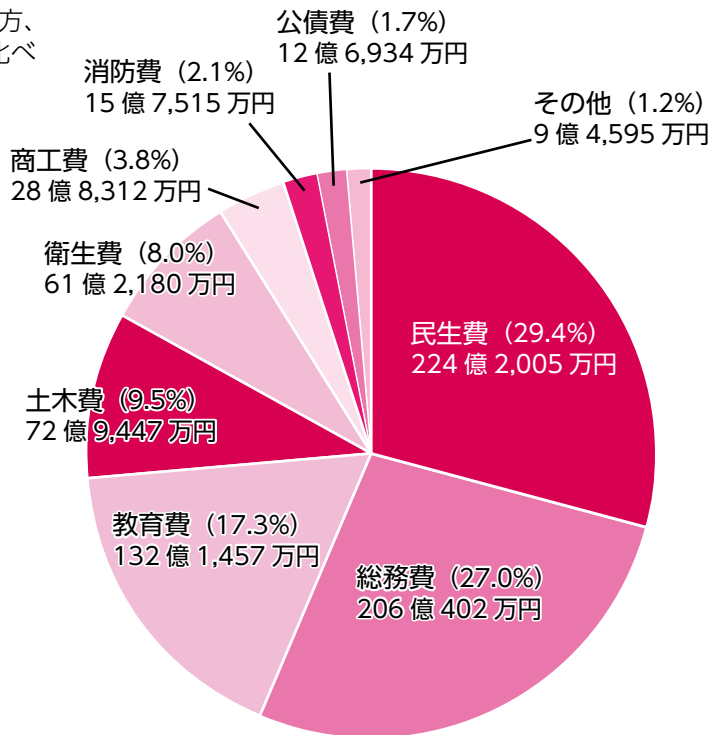
市債

国や銀行などから調達する長期的な借入金

収入の根幹をなす市税は減収となりました。これは、法人市民税が税制改正による一部国税化および経済情勢、企業の収益動向等を受けたことなどによります。

また、地方特例交付金、使用料および手数料が減となった一方、国庫支出金、市債、繰越金が増となり、歳入総額は前年度に比べ35.2%の増となりました。

※内側の円グラフは、市税決算額内訳



一般会計の歳出決算

総額 763 億 2,847 万円

民生費

子ども、高齢者、障がい者の福祉などの費用

総務費

税務事務、選挙、統計調査、公共交通などの費用

教育費

小・中学校の管理運営や施設整備および文化・スポーツ振興などの費用

土木費

道路・公園の補修や建設などの費用

衛生費

健康診断や予防接種、ごみ処理などの費用

商工費

商工業、観光振興などの費用

消防費

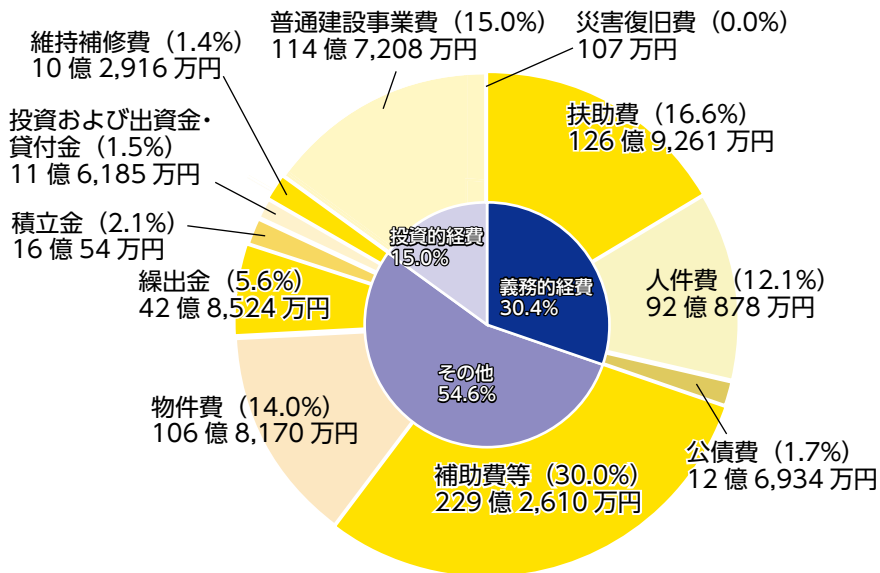
消防などの費用

土木費が都市基盤整備基金積立金や(仮称)小牧駅前線(第3-2工区)小牧市之久田線新設改良事業費が減となった一方、総務費が特別定額給付金支給事業費(約154億円)の皆増などにより増となったため、歳出総額は前年度に比べ、38.7%の増、歳入歳出差引額はプラス26億9,148万円となりました。

歳出性質別決算額

右のグラフは、歳出決算額763億2,847万円における、人件費などの義務的な支出なのか、公共事業など将来のために投資するための支出なのかなど、どのような経費として支出したかを表したものです。

- 扶助費／子ども・高齢者・障がい者への支援などに要する経費
- 人件費／職員の給与、議員の報酬などの経費
- 物件費／施設の光熱費や委託料などの経費
- 補助費等／一部事務組合や各種公益団体に対する補助金などの経費
- 繰出金／一般会計から特別会計・企業会計へ支出する経費
- 維持補修費／道路、公共施設などを修理・管理するための経費
- 普通建設事業費／道路、公共施設などを整備するための経費
- 義務的経費／支出することが制度的に義務付けられている経費
- 投資的経費／道路・学校など将来に残るものに対する経費



特別会計決算状況

特別会計とは

それぞれのお金の出入りをはっきりさせるために、独立して管理される会計です

国の制度として特別会計で処理することが定められているものもあります。

特別会計は、特定の目的や収入がある事業について一般会計と分け、それぞれの収支を明確にしています。8ある特別会計は、全体で歳入が248億620万円、歳出が246億329万円で、2億291万円の黒字となりました。

会計名	歳入決算額	歳出決算額
土地取得	88万円	88万円
国民健康保険事業	120億5,664万円	120億4,159万円
小松寺土地区画整理事業	436万円	434万円
文津土地区画整理事業	4億6,499万円	4億5,647万円
岩崎山前土地区画整理事業	1億6,878万円	1億5,364万円
小牧南土地区画整理事業	4億6,988万円	4億5,198万円
介護保険事業	80億8,420万円	79億4,940万円
後期高齢者医療	35億5,647万円	35億4,499万円
合計	248億620万円	246億329万円

企業会計決算状況

企業会計とは

民間の会社と同じように、利用した人から料金をもらうなど経営活動による収入で支出をまかなう「独立採算方式」の会計です

企業会計の決算には、当該年度の経営活動に伴う「収益的収支」と、設備投資や借入金などの収支を表した「資本的収支」の2種類があります。企業会計の赤字・黒字は、1年間の経営成績を示す消費税および地方消費税抜き損益計算書で判断します。

病院事業

	収入	支出
収益的収支(税込決算額)	233億2,972万円	244億1,363万円
収益的収支(損益計算書)	232億3,740万円	243億5,149万円
資本的収支(税込決算額)	12億6,787万円	34億118万円

病院事業では、入院外来等収益が増加したものの、材料費、減価償却費等が増加したことにより、赤字決算となりました。今後も、「小牧市民病院改革プラン」に基づき、経営の健全化に努めていきます。

水道事業

	収入	支出
収益的収支(税込決算額)	30億7,938万円	26億2,217万円
収益的収支(損益計算書)	28億5,992万円	24億7,997万円
資本的収支(税込決算額)	2億6,039万円	11億9,852万円

水道事業では、黒字決算となりましたが、今後も管路の耐震化など水道施設の更新に多額の費用が見込まれることから、令和元年度に策定した小牧市水道事業ビジョン・経営戦略に基づき財政基盤の強化、お客様サービスの向上に努めていきます。

下水道事業

	収入	支出
収益的収支(税込決算額)	30億2,376万円	29億7,910万円
収益的収支(損益計算書)	28億7,880万円	28億7,880万円
資本的収支(税込決算額)	12億7,175万円	17億2,407万円

下水道事業では、損益計算書が入出同額となっていますが、これは一般会計から1億2,100万円の補助を受けたことによるものです。毎年、一般会計から赤字補填として補助を受けていることから、企業会計移行を機に令和2・3年度の2カ年で「長期経営計画」を策定し、財政状況を見直し経営健全化を図ります。

令和2年度決算

一般会計 + 特別会計

歳入総額

1,038億2,615万円

歳出総額

1,009億3,176万円

— 翌年度へ繰り越すべき財源

= 実質収支額 約19億7,788万円の黒字



令和2年度の主な事業

教育費 約132億円のうち

中央図書館の開館準備

図書館施設建設事業

[決算額 30億7,295万円]

中央図書館の開館に向けて、建設工事を行いました。また、電動式移動棚やセキュリティゲートをはじめ、書棚、閲覧用の机や椅子などの什器等を購入しました。



民生費 約224億円のうち

地域における子育て支援

こども未来館施設整備事業

[決算額 13億7,368万円]



再開発ビルラピオの2階から4階の空床部分に、こまきこども未来館の整備を進めました。デジタルコンテンツについては、学官連携により制作を委託しました。

総務費 約206億円のうち

利用しやすくなった「こまくる」の運行

拡充

こまき巡回バス運行事業

[決算額 3億7,614万円]

令和2年12月1日から、さらに愛着と親しみをもってもらうよう、愛称を「こまくる」とし、市内全域でのルート・ダイヤの再編運行を開始して、利用者の利便性向上を図りました。



土木費 約73億円のうち

小牧駅周辺市営駐車場の利便性向上

市営駐車場施設整備事業

[決算額 6億2,019万円]

中央図書館の開館に合わせ、中央図書館地下駐車場の整備や小牧駅地下駐車場の在否センサー整備等を行い、小牧駅周辺市営駐車場の利便性向上を図りました。

新型コロナウイルス感染症対策（主なもの） 市民生活の安定、地域経済の下支え

こまきプレミアム商品券（※通常分を含む）

[決算額 4億1,610万円]

新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだ地域経済の活性化と市民の生活支援を図るため、プレミアム率を30%、販売数を15万セットに拡大して実施したこまきプレミアム商品券発行事業に対して補助をしました。



水道料金基本料金の6カ月間免除

[決算額 3億1,613万円]

市民生活および経済活動への支援として水道料金基本料金の6カ月免除のため水道事業会計へ繰出金を支出しました。

こまき応援食事券

[決算額 2億5,132万円]

市内飲食店の消費需要の喚起、地域経済の活性化、市民の生活支援を目的に、プレミアム率100%のこまき応援食事券事業を実施しました。



全項目で健全化基準をクリア

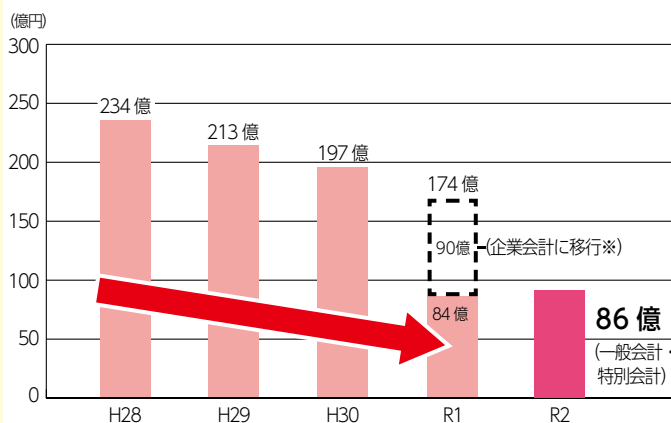
4つの健全化判断比率では早期健全化基準を、資金不足比率では経営健全化基準を下回っており、市の財政は健全であるといえます。

指標	健全化判断比率				資金不足比率
	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率 (3カ年平均)	将来負担比率	
説明	財政規模に対する一般会計などの赤字の割合	財政規模に対する全会計の赤字の割合	財政規模に対する1年間で支払った借入金返済額などの割合	財政規模に対する将来市が支払う借入金返済額などの割合	公営企業ごとの事業規模に対する資金不足額の割合
令和2年度	赤字なし	赤字なし	0.0%	実質的な将来負担なし	資金不足なし
令和元年度	赤字なし	赤字なし	△0.3%	実質的な将来負担なし	資金不足なし
国が示す基準	早期健全化基準	11.57%	16.57%	25.0%	350.0%
	財政再生基準	20.0%	30.0%	35.0%	—
					経営健全化基準 20.0%



市債残高の推移

市債は減少傾向です



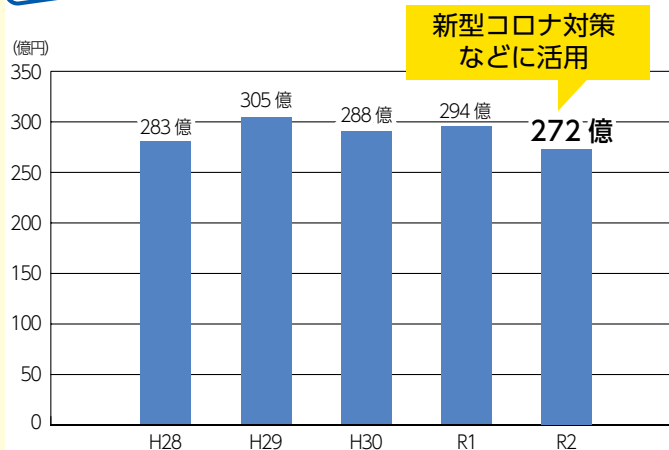
市債とは、学校や福祉施設などを建設する場合のように、長期間にわたって多くの市民が利用することができ、多額の費用が必要なもののために、市が、政府・地方公共団体金融機構・銀行などから調達する長期的な借入金のことです。

一般会計・特別会計を合わせた令和2年度末現在高は、中央図書館、こども未来館、小牧南小学校の整備による借入などにより約86億円となり、前年度末より約2億円の増となりました。
※平成31年4月1日に公共下水道事業特別会計と農業集落排水事業特別会計が企業会計に移行しました。



基金残高の推移

計画的に積み立て・活用しています



基金とは、特定の目的のために積み立てることで、後年度の財政負担を軽減し、計画的な財政運営を行うための貯金です。

財政調整基金や積立型基金など、全ての基金の合計残高は約272億円となり、前年度末より約22億円の減となりました。
これは、中央図書館、こども未来館、小牧南小学校の整備の際に、それぞれ積立型基金を計画的に取り崩したほか、新型コロナウイルス感染症対策に係る諸事業を実施するため、**財政調整基金を4億円取り崩した**ことによるものです。

～借入金を抑え健全財政に努めています～



「市債」は、単に赤字を補う借金ではなく、耐用年数が長く多くの市民の利用を見込む施設について、将来の市民も同様に利益を受けると考えられるので、現在の市民がすべて負担するのではなく、長期に分割して支払うことで、将来の市民にも公平に費用を負担してもらおうという制度です。

市では、適切な金額を借入れており、財政の規模に対する市債の借り入れ状況についての指標(地方債残高÷標準財政規模：令和2年度決算 0.24)は、**県内の都市で最も良好な数値**となっています。

